

## 第2回 難聴児の早期支援及び関係機関連携強化検討会 議事要旨

- 1 日時 令和4年8月2日
- 2 場所 東京都庁33階 特別会議室N1（リモートで同時開催）
- 3 出席者 濱田豊彦座長、守本倫子委員、越智大輔委員、佐々木勝委員、黒木倫子委員、  
荒川早月委員、木曾雄一委員  
リモート 川上一恵委員、中井章人委員、神田士郎委員
- 4 意見交換  
資料についての説明・質疑応答の後、意見交換を行った。意見交換の概要については以下のとおりである。

### 難聴児とその保護者支援に関する調査結果及び難聴児支援の中核機能の構築に向けた検討について

#### （資料3・論点1：新生児聴覚検査を受ける）

- ・東京都の新生児聴覚スクリーニング検査の公費負担額は他県と比べて高くはない。検査の差額を徴収している医療機関もあると思うので、今後検討していただきたい。
- ・保護者の方とお話をしていると、出産した病院によって、違いがあると感じる。産科の段階で安心に繋がるようなルートがあるといいと思う。
- ・里帰り出産をされた方の支援の状況について、住民票を東京都内に持っている場合、どのような扱いになっているのか。  
⇒検査の費用に関しては、各市町村で償還払いとなる。後日、助成金相当を給付するという形で対応している。
- ⇒東京都の場合、一定規模いる里帰り出産をされた方について、リファーになった場合どういう風に情報を取り、東京でまた生活を始められているか、どういう風にカバーしていくかが今後の課題ではないか。

#### （資料3・論点2：精密検査を受けるまでの支援）

- ・初回の検査でリファーになった後、親御さんが非常に不安になっていたり、そのまま宙ぶらりんになっているという状態があり、今回の取組の中で何らか介入するということが必要かと思うが、現状として、東京都はどのように情報提供しているのか。  
⇒ホームページは「赤ちゃんの耳のきこえについて」というホームページを設けており、その中で検査を受けられる医療機関、都内の乳幼児の教育相談、療育機関リストの一覧を掲載している。
- ・都の主な取組に「都立ろう学校乳幼児教育相談で相談対応」と書かれているが、中核機能を持つ支援センターができた場合、この機能はどうなってしまうのか。

⇒支援センターは、ご家族がどんなものを求められているのかきちんとお話をお伺いして、様々な情報提供をしていくことが役割。紹介後のろう学校への相談、その他の療育機関への相談は、現在と同じような形であるというイメージ。

・病院として初めてのリファーマで病院の看護師さんも慌ててしまって、1週間のうちに3回も検査したんですとか、とりあえず大学病院に行ってくれとか不安が募るような対応は意外と多い。

⇒初回検査で、まずリファーマになった時に不安な気持ちのままでなくて、タイミングよく相談できるとか、情報がきちんと伝わる仕組みが漏れなくできるといい。

⇒産科の先生にも上手に情報提供、あるいは場合によってはサポートしますよというような何かメッセージが入れられるといいかも。

・産科では、検査結果の報告書に精密検査を受ける病院を自分の病院で検査する場合は書くが、空白にした場合は、行政から紹介する仕組み、そこは機能しているか。

⇒行政から保護者に連絡するのが、時間がかかっているケースもあるのでは。もう受診する病院を決めていたり、その2、3週間が不安を募らせる期間でもあると思う。

⇒その辺の整理もしていただきたい。

### (資料3・論点3：精密検査から療育へ)

・「療育機関等を複数検討されましたか」(問17)に対し、「いいえ」が44人。東京都内はいろいろな施設があるにもかかわらず、複数検討していない。病院ではどのように紹介を行っているか。

⇒「いろいろな種類、いろいろな療育機関がある」とお話ししている病院でも、保護者さんが一つの施設を見に行き終わっている場合もあると思う。病院によっては1箇所しか紹介しないところもあるため、医師の判断でしか紹介してもらえなかったなどといった不満に繋がっているかもしれない。

・施設では、ほとんどの保護者の方が、最初問合せがあって、見学をされて、その後さらに教育相談という二段階の形。見学の時点では、広く知識的なところの説明や保護者の方の心配に答え、ほかも見学されてはと勧めている。実際にろう学校や他事業所も見学された方も多い。

・施設に通っている方で、遠いとか、合わないとかで変わろうかなと考えている方が、相談できればいいのかなと思う。

⇒こういった場合の受け止めも中核機能のセンターで公平にやれたらいい。

### (全体)

・公平公正に情報提供してもらいたいという話が前回もあった。中核機能のセンターでは、ご家族が求めているものを伺って、様々な情報を提供することが求められる。療育機関等へつなげることも役目と考えている。

- ・支援センターをつくるにあたり、新生児聴覚スクリーニング検査でリファーになった親御さんたちに寄り添える体制、相談できる人が身近にいることが今後求められる。
- ・新生児訪問も含めて、一番赤ちゃんに身近なのは保健師さんなのかなという風に考えると、保健師の方々の知識を増やす、という役割も非常に大事になってくる。
- ・アンケートの中で例えば手話に関する情報が足りなかったという感想も見受けられた。また、一つだけではなく、補聴器と手話、人工内耳と手話というような複合的な支援の情報を求めている方もありました。そういったことも含めて幅広い支援は必要。

### (3) 協議会設置について

- ・今後、状況の把握だけではなく、今度は検討の場として、協議会を設置したい。